

「SDGs と TOD／ロンドン地下鉄パディントン駅とキングスクロス駅」

ご存知と思うが、SDGs は Sustainable Development Goalsの略で「持続可能な開発目標」のこと。2015年に国連で採択されたもので、17のゴールが定められている。土木・建築・鉄道関連では、下記が関連する項目になる。

7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに

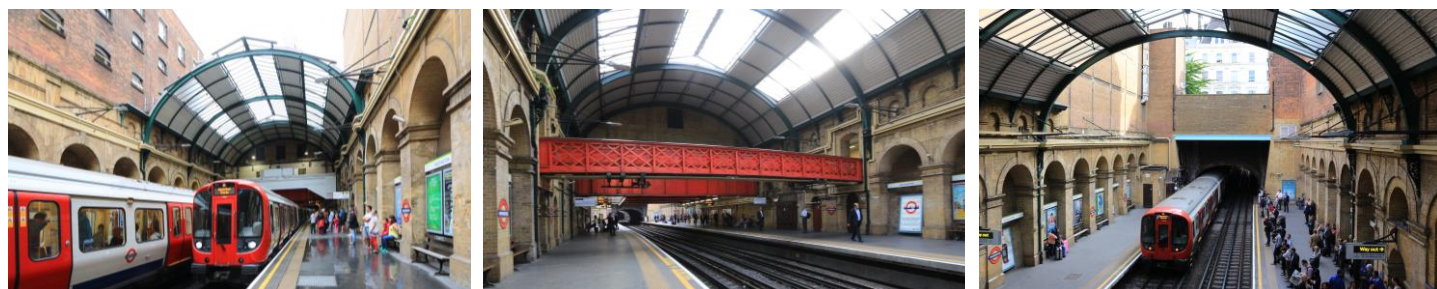
11.住み続けられるまちづくりを

12.つくる責任つかう責任

13.気候変動に具体的な対策を



「つくる責任つかう責任」は建物の長寿命化も1つの手法である。下の写真は世界最古の地下鉄駅であるロンドンのパディントン駅。屋根がない掘割の駅は地下鉄開業時、蒸気機関車が客車を引っ張っていた名残である。ちなみに、初期の地下鉄は開削工法で建設されており、その後シールド工法（トンネル直径3.56m）で作られた路線では小断面の車両が走り、Tubeという愛称で呼ばれている。時代を超えて通用する設計／構造体はSDGsの見本である。



（左：部分的に屋根がないホームは、雨の多いロンドンでは困り物。中：ホームは地下2階レベル。右：車両は第四軌条方式の larger sub-surface trains）

一方、TODはTransit Oriented Developmentで公共交通指向型都市開発の意味である。TODは公共・市民・民間事業者それぞれに便益を生み出すWin-Winを越えたTriple-Winの手法として注目されている。

鉄道発祥の地・イギリスでもTODが盛んで、キングスクロス駅周辺では古い歴史的な駅舎の増改築や、長さ300m以上となるグーグル・ロンドン新社屋の建設計画など話題が豊富である。



写真左はキングスクロス駅とユーロスターも発着する隣接するセント・パンクラス駅(左奥)。中はキングスクロス駅増築部、商業施設も入る。右は映画ハリポッターのシーンを再現した、ホグワーツに行ける？ PLATFORM 9³/₄ 番線の記念撮影スポット。映画『阪急電車・片道15分の奇跡』の続編ができるなら、旧梅田駅のアーチ天井／現在の阪急百貨店レストランの扉をくぐると、昔にタイムスリップしてしまうという勝手なストーリーを妄想している(笑)。



上は、駅周辺に残っていたガスタンクの骨組みを解体・移転・再利用した「循環利用型」の公園（Gasworks Park）と丸い鉄骨の中に建てられた集合住宅で、歴史的な産業遺産を活用したSDGsにも配慮したTODの一例である。

阪急電鉄は、創業当初からTODを行なってきた典型的な企業であるが、当社でもSDGsを意識しながらTODに少しでも貢献できるよう取り組みを続けたいと考えている。(写真は、特記あるもの以外、2016年7月筆者撮影)